

目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高める国語科学習指導の工夫 — 動画を活用し、話し合いの仕方をまとめる活動を通して —

呉市立白岳小学校 吉原 知美

研究の要約

本研究は、目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究では目的に応じて適切に話し合いを進行する力を、会議という話し合い活動で、司会者・提案者・参加者がそれぞれの役割を理解し、話し合いの目的からそれぞれに、自分と他者の意見の共通点と相違点を整理しながら話す力とした。この力を高めるため、動画を活用し、話し合いの仕方をまとめる活動を取り入れることが有効であると考えた。そこで動画教材を作成し、第3学年で全員が役割を経験し、動画を活用して各役割の理解を深め、話し合いの仕方をまとめる活動を取り入れた授業を行った。その結果、役割を理解し、話し合いの目的からそれぞれに、自分と他者の意見の共通点と相違点を整理しながら話す力に高まりが見られた。このことから、動画を活用し、話し合いの仕方をまとめることは、目的に応じて話し合いを進行する力を高めることに有効であるといえる。

キーワード：話し合い 動画の活用 役割の理解及び経験

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年，以下「指導要領」とする。）の国語第3学年及び第4学年「A話すこと・聞くこと」の話し合うことに関する指導事項オとして、「互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。」¹⁾と示されている。

この指導事項に関わって、平成24年度全国学力・学習状況調査では、国語B²⁾三「司会として話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進めること」において全国・広島県ともに正答率が低いという結果が報告されている。また、「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」（平成24年）では、「話し合いにおける司会の役割や参加する側としての立場、考えの根拠などを明確にしながら、話し合いを計画的に進めること」に課題があると述べられている。これらの課題を改善するためには、「学年の段階に応じた司会の経験と指導の充実を図ること」「自分の立場・意見と根拠とを論理的に結び付けながら話し合う指導の充実を図ること」と述べられている。

以上の課題に関わって、話し合いにおける役割についての先行研究や実践事例は、まだ少ない。また、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年，以下「解説」とする。）において、司会などの役割について

の具体的な指導の必要性が述べられているのが、第3学年及び第4学年である。そこで、本研究では、第3学年国語科において、目的に応じて話し合いを進行する力を高めるための学習指導の工夫を考察していくことにする。

II 研究の基本的な考え方

1 目的に応じて適切に話し合いを進行するとは (1) 話し合いにおける目的の重要性

「指導要領」の国語「A話すこと・聞くこと」における「目標」を学年ごとにまとめて表1に示す。

表1 「話すこと・聞くこと」における各学年の目標（下線は稿者）

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

この目標に関わって、「解説」には、中学年の話題について、「低学年の『相手に応じ』ることに加え、『目的』を明確にすることを求めている。」²⁾と述べられ、引き続いて高学年においても「目的」の重要性について述べられている。

また、水戸部修治（平成21年）は、「単に『グループで話し合しましょう』といった指示を行うだけではなく、何のために、どのような方向に向けて、どのように話し合うのかといったことについて具体的に子どもに示すことも大切なものとなる。」³⁾と述べている。

これらのことから、第3学年以上の話し合いにおいては、目的を明確にして話し合うことが重要であるといえる。

(2) 発達段階からみた中学年における話し合いとは

中学年の聞き方話し方の特徴について、山元悦子（2004）は、低学年の頃に比べれば、自分の言いたいことを整理して話そうという意識が働いてくると述べる一方で、「自分の言いたいことを整えて言葉にしようとするあまり、相手への配慮や場の目的を見失っていきがちである。」⁴⁾といった指摘もしている。このような特徴のある中学年では、小グループで話し合う活動を積極的に取り入れ、協同性を育てることの重要性を述べている。

また、中学年における認知上の特性として、山元（2009）は、「他者と自己との違いを意識でき、違いを表現できるようになることが指摘できる。がそれが建設的なものになるとは限らず、話し合い展開は反論の応酬になることもある。」⁵⁾と述べている。この原因として、話し合いの目的や展開を同時に認識しながら思考を進めることが困難なことや、建設的な話し合い方に関する知識が不十分であることを挙げている。

これらのことから、中学年においては、話し合いの目的からそれずに協力して進めるために、話し合いの仕方を学ぶことが必要な段階であるといえる。

(3) 教科書教材からみた中学年における話し合い

高橋俊三（1993）が述べる、子供たちの学校生活から見た話し合いの種類を、表2にまとめる。

表2 話し合いの種類

(1) 会議	学級や学校の身近な諸問題を解決するための話し合い
(2) 話し合い	読解過程などの中であって、学習を進めるための話し合い
(3) 討論	特に話題を選び、互いの思考や思想を深めるための話し合い

次に、中学年における話し合いとして、具体的にどのような題材が取り上げられているのかを、5社の教科書から調べ、話し合いの目的と合わせて表3に整理する。

各題材の話し合いの目的に共通してみられるのは、「身の回りにある問題を解決するために話し合うこと」である。また、司会を立てた話し合いの例示が

あり、その単元においては、話し合いの仕方を学ぶことになっている。

表3 中学年における話し合い活動の題材と目的

学年	題材	話し合いの目的
東京書籍	3年 こちら、「子ども相談室」	友だちの相談事を解決するためにみんなで話し合う
	4年 みんなで話し合って	給食週間の取組として、調理員さんに感謝の気持ちを伝えるためにみんなでできることを話し合う
光村図書	3年 わたしたちの学校行事	地域の人たちを招待した交流会で学校行事についてどんな説明をすればよいかを話し合う
	4年 よりよい学級会をしよう	どうすればよりよい学級会になるか話し合う
三省堂	3年 よりよいクラスを作ろう	クラスをよりよくするためにアイデアを出し合い、「後ろの黒板の使い方」について話し合う
	4年 安全について考えよう	通学路の安全について、通学路のどんなところがあぶないか、どうすれば安全になるのかをみんなで話し合う
教育出版	3年 学校生活に生かす話し合いをしよう	日頃の係の仕事についてアンケートをとり、その結果を生かしてもっと楽しくなる係活動を考えるために話し合う
	4年 学級で話し合おう	校内テレビ放送で流す三分間の「学校紹介番組」で紹介する内容を決めるために話し合う
学校図書	3年 クラスレクリエーションをしよう	クラスみんながもっと仲良くなるためのクラスレクリエーションをいつ、どんなことをするかについて話し合う
	4年 ごみをなくそう	身の回りのごみをなくすには、どのようにしたらよいかを話し合う

高橋（1993）の話し合いの種類と照らし合わせてみると、第3学年及び第4学年の教科書教材における話し合いは、「学級や学校の、身近な諸問題を解決するための話し合い（会議）」となっていることが分かる。

(1) (2) (3) から、本研究では、身近な諸問題を解決することを目的に、司会を立て、協力し合って一つの意見にまとめる会議という話し合い活動を取り上げることとする。

(4) 話し合いの進行における司会の重要性

話し合いの役割について「解説」には、「司会者は、話し合いがまとまるように進行していくのが役割である。」⁶⁾と述べられている。司会を初めて経験する児童に、司会の役割を理解させることが必要である。

村松賢一（2009）の述べる「話し合いの過程における司会の役割」を、表4にまとめて示す。

表4 話し合いの過程における司会の役割

①枠組みを明示する	話し合いの目的やゴール、課題、話し合うべき事項、所要時間などを説明し、参加者に、何のために、何を、どこまで、どのように話し合うかを理解させる。目的やゴールは話し合いの最中にも時々参加者に想起させるとよい。
②発言を促す	参加者からまんべんなく意見を引き出す。発言が一部のみに偏らないように指名に配慮する。
③発言を明確にする	曖昧な意見には根拠や具体例を求めたり、だらだらした発言は要約するなどして、発言の明確化を図る。
④発言を類別する	途中で、それまでの発言を内容やレベルによって分類し、いくつかの主な意見に分ける。
⑤論点を整理する	途中で、主要な論点と副次的論点、一致点と対立点、決定事項と未解決課題などを整理し、参加者に、次は何について話し合うべきかを明示する。
⑥効率的に進行する	一つの論点で十分議論が尽くされたと判断した場合は、参加者の同意を得てすみやかに次の論点に移る。優柔不断で堂々巡りに陥らないよう、逆に、予断に基づいて強引に引き回さないようバランス感覚が必要である。
⑦最後に、決まったこと、懸念すべき事柄、記録を読み上げるなどして確認する。	

話し合いを進行する上で、司会はその場の状況を把握し、話し合いの目的からそれないように進めていくことが求められる。

若木常佳（平成13年）は、司会に必要な力について「即座に判断し、発言するという即座に応答する力」⁷⁾と捉え、この力を体得させることが有効な話し合いを構築させることになる」と述べている。

本研究では、特定の児童のみが司会をするのではなく、全員が司会を経験することにより、その場の状況を把握し、話し合いの目的からそれないように進めていく役割の大切さに気付かせたいと考える。

(5) 目的に応じて適切に話し合いを進行する力とは

棚橋尚子（2013）は、話し合いの現状として、司会者が参加者に順に発表させるだけで、意見のすり合わせなどはあまり見られないなど、少人数の話し合い活動においてさえも、適切に話し合いが進行していないことを指摘している。

若木（平成13年）は、話し合いの在り方として「話し合いの目的を意識し、お互いの意見を分類整理して方向性を模索しながら話し合いを進めていくものである。」⁸⁾と述べている。

では、会議という話し合い活動において、適切に話し合いを進行するとはどのように進めることであろうか。

「解説」には、目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高めるために、役割ごとの具体的な指導内容が述べられている。表5にまとめて示す。

表5 役割ごとの指導内容

司会者	提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめることができるように高めていく。
提案者	参加者全員に考えが伝わるように話す内容を整理したり、話し方に注意したりする必要がある。
参加者	進行に合わせながら、積極的に自分の考えを発言し、話し合いに加わるようにさせる。

また、話し合いの言語活動例について「解説」には、学級全体で話し合うためには、話し合いにおける各役割を決めて運営することの必要性和、個人やグループの意見の共通点や相違点を整理し、それらを反映させて一つの考えに集約することの重要性が述べられている。

以上のことから、本研究において、目的に応じて適切に話し合いを進行する力とは、会議という話し合い活動において、「司会者・提案者・参加者がそれぞれの役割を理解し、話し合いの目的からそれずに、自分と他者の意見の共通点と相違点を整理しながら話す力」とする。

2 目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高めるための指導の工夫

(1) 動画教材の有効性

「話すこと・聞くこと」の指導に関わって「解説」には、「音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。」⁹⁾と述べられている。その教材として、動画は、次のような特性から話し合いの指導において有効であると考えられる。

1点目は、学習者に話し合いの臨場感を与えることができるということである。視聴する学習者は内容や声だけでなく、話し合っている人々の表情や仕草なども含めて話し合いの様子を丸ごと視聴することになる。動画は聴覚だけでなく、直接学習者の視覚と聴覚に訴える教材になるといえる。

2点目は、着目させたい場面を焦点化できることである。野口芳宏（1995）は、「音声言語は『消えていく』ものであるが故に、その指導はその場ですぐに行うことが最も有効である。」¹⁰⁾と述べている。発言の即時性が求められる話し合いの学習において、動画は指導したい場面を焦点化して提示できる教材になるといえる。

3点目は、自分たちの話し合いをモニタリングできることである。高橋（1993）は方法を示す教材について「完成されたものがよいとは限らない。教材の良いところは認め、悪いところは改善法を考えるとこのも立派な教材の活用である。」¹¹⁾とし、児童の話し合いの様子を教材にすることの重要性を述べている。また、山元（2004）は、中学年の話し合いの指導において、話し合いの流れを振り返り、話し合いに対するイメージをもたせ、よりよい話し合いについて意識を高めていくことの必要性を述べている。

このことから、自分たちの話し合いの様子を録画した動画を見て、話し合いを振り返る（モニタリングすること）は、よりよい話し合いの仕方についてまとめることに有効であるといえる。

以上のことから、本研究では、目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高める指導の工夫として、動画教材を作成し、その有効性を生かした検証授業を行っていく。

(2) 動画を活用して話し合いの仕方をまとめる活動を通した指導

本研究では、各役割についての理解や、発言の仕方を含めた話し合いの仕方を学習する際に動画を活用する。研究授業で活用する動画は、作成した「話し合いのモデル」及び授業で録画した「自分たちの話し合いの様子」の2種類とし、主に役割を理解する際に

「話し合いのモデル」の動画は、村松（2009）の述べる「話し合いの過程における司会の役割」を基に、項目が多く含まれていた教育出版3年生の教科書を参考にし、話し合いの仕方の「役割を果たしている例」と「役割を果たしていない例」のモデルを作成する。シナリオを図1に示す。

議題「本の紹介をするためにどのような活動をしりたいか」 ～相手や目的に応じて話し合う～ (教育出版「ひろがる言葉小学国語3上」平成24年を基に作成)	
共通部分	
司会	これから、本の紹介をするために、どのような活動をしりたいかということについて、話し合いを始めます。 (話し合うことをはっきりと伝えている。)
提案	アンケートの回答の中にも、もともと、本の紹介をしたいという希望がありました。クイズ大会などをして、楽しくみんなに本を紹介したいと思っています。
司会	他に意見はありませんか。(みんな：意見がないような雰囲気をつくる。) ないので、大島さん、もう少し詳しくやり方を話してください。
提案	はい。まず学級文庫の中から紹介したい本を選びます。次にその本の中からクイズの問題を考えます。そして、クイズ大会で作ったクイズを出します。
司会	大島さんの提案は分かりましたか。(みんな：うなずく。) それでは、提案について意見を出してください。
提案	クイズは、誰が作るのですか。図書係ですか。みんなに作ってもらって集めますか。
提案	最初は、図書係が作ってやってみたらいいと思います。やり方が分かれば、みんなでクイズ大会が出来ると思います。
役割を果たしている例	
参2	クイズが楽しそうでいいですね。ぼくは〇×クイズがいいと思います。みんなで問題を考えてよう。
司会	ちょっと待ってください。まだ、クイズをするかは決まっていないので、クイズに決まってから、内容を考えてみましょう。本の紹介の方法について、ほかの意見を出してください。 (話し合っている内容からそれないようにする。)
参3	わたしは、お話会がいいと思います。この前、近くの図書館でお話会をしていたので、行ってみました。図書館の方が選んだ本を読んでもらったのを見て、自分でも読みたい本があったからです。
参4	お話会も楽しいかもしれないけど、みんなは聞いているだけですか。できれば、クイズや読書郵便のように、みんなが一緒にやるのがいいと思う。ぼくは、たくさん本を読む子になるのが思いです。読書郵便は、友達あてにおすめのカードを書いてもらい、図書係が郵便のように届けるものです。
司会	提案が3つ出されました。みんなの考えの共通点は、読書の楽しさを伝えて、もつとみんなにいろいろな本を読んでもらおうというんですね。クイズや読書郵便は、クラスの人々も一緒に活動することになりますが、お話会は、主に図書係が行う活動ですね。どれもいいと思います。どれがよいと、(共通点や違う点を整理し、まとめている。)
参2	読書郵便に賛成します。クイズは楽しいと思ったけれど、自分のおすめの本を紹介した方が、みんなにいろいろな本を読んでもらえると思います。
参1	ぼくも読書郵便に賛成します。もらったカードを記録としてしておくことができるからです。
司会	図書係だけでなく、みんなで参加できるし、いろいろな本を紹介できるので本の紹介の方法は読書郵便をするのでいいですか。(みんな：はい。)
司会	今日は本を紹介するためにどんな活動をしりたいかを話し合いました。みんな、いろいろな意見を出してくれてありがとうございました。これで、話し合いは終わります。
役割を果たしていない例	
参2	それいいね。ぼくは〇×クイズがいいと思います。じゃあ、みんなで問題を考えてよう。
司会	そうですね。では、どんなクイズがいか考えてください。 (話がそれていることに気付かず、司会の立場を忘れて自分勝手に進めている。)
参1	ぼくは「学校の本は何冊あるか。」がいいと思います。
参4	私は、クイズだと本当に伝えたいことを紹介できないと思うので、クイズ以外にしたいと思っています。
参3	私もその方がいいと思います。〇×クイズより、3択クイズにした方が楽しいと思います。
参2	〇×クイズを5問ぐらいにしたいと思っています。
司会	意見が分かれたので、誰の意見に決めますか。多数決で決めます。いいですか。(整理しないまま決定しようとする。)
全員	いいです。
司会	〇×クイズがいい人は手を挙げてください。(提案と参1と参2は挙手) 3択クイズがいい人は手を挙げてください。(参3挙手) クイズ以外がいい人は手を挙げてください。(参4挙手)
司会	〇×クイズが多かったもので、〇×クイズに決まりました。今日は本を紹介するためにどんな活動をしりたいかを話し合いました。みんな、いろいろな意見を出してくれてありがとうございました。これで、話し合いは終わります。

司会の発言によって話合いの流れが変わることに気付かせるために、「役割を果たしていない例」では「話合いの目的からそれる」「出た意見の共通点と相違点を整理してまとめる」場合において、司会の役

話合いの仕方をまとめる活動においては、話合いのモデルを基に、発言の目的と対応した司会の発言を探し、学級全体で確認したことを「話合い進行表」に整理する。これを話合いの練習や単元終了後の学級会で活用する。また、動画を見たり、役割を経験したりして気付いたことを出し合い、学級全体で確認した後「話合いの手引き」に役割ごとに大切なことをまとめる。それを教師が短冊にまとめ、掲示して意識化を図る。学習の最後に、「話合い進行表」と合わせて「話合い名人への手引き」とし、今後の話合い活動に活用できるようにする。

テストでは、協議における司会の役割や働きを押さえて、話し合いを計画的に進めることができるかどうかをみる問題（「平成19年度全国学力・学習状況調査の問題」「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ 課題として考えられる内容の解決に向けた授業アイディア例」，平成24年）を課題文として用いる。プレテスト・ポストテストの問いを次に示す。

(2) 事前アンケート及び事後アンケート

アンケートでは、４段階評定尺度法を用いて、話し合う力に対する児童の意識を把握する。事後アンケートでは、動画を用いて話し合いの仕方をまとめる活動が、目的に応じて話し合いを適切に進行する力を高めることに有効であったかの児童の意識を把握する。

IV 研究授業について

1 研究授業の概要

研究授業では、学級会での話し合いを本番とし、その話し合いを成功させるために「話し合い名人への手引き」を作るといった単元を貫く言語活動を設定した。表 7 に主な学習の流れを示す。

表 7 主な学習活動の流れ

次時	学習内容	動画の活用	まとめる活動
一	話し合いのモデル（役割を果たしている例）を見て気付いたことを出し合う。 これまでの自分たちの話し合い活動を振り返り、課題を明確にし、話し合い名人になるための学習の見通しをもつ。	役割を果たしている例のモデル（臨場感）	課題について
	話し合いのモデル（役割を果たしている例）を見て、提案者・参加者の話し合いの進め方や話し合いにおける役割を知る。	役割を果たしている例のモデル（焦点化）	提案者・参加者の役割について
	話し合いのモデル（役割を果たしていない例）を見て、司会者の話し合いの進め方や話し合いにおける役割を知る。	役割を果たしていない例のモデル（焦点化）	司会者の役割について 話し合い進行表
	話し合いの仕方大切なことを役割ごとに確認し、全員が役割を交替して話し合いの練習をする。（4人グループ）4分×4回 「議題を選ぶ話し合い」		
二	自分たちの話し合いの様子を振り返り、お互いにアドバイスし合いながら話し合いの練習をする。（6人グループ）4分×3回 「寒い日の健康的な過ごし方」	※グループの中で話し合いの様子を見てアドバイスする 役を設けた。	
	2つのグループに分かれ、話題からそれぞれに話し合いが進行しているかに気を付けて話し合いを聞き合う。（A、Bグループ）7分×2回 「お楽しみ会のめあて」 話し合いの手引きを役割ごとにまとめる。	役割を果たしている例のモデル（焦点化） 第5時とAグループの話し合いの様子（モニタリング）	話し合いの手引き
三	学級会での話し合いをシミュレーションする。（学級全体）15分 「お楽しみ会のめあて」 今後の話し合い活動に生かせるようにまとめる。	第6時のBグループの話し合いの様子（焦点化・モニタリング）	意見をまとめる話し合いで大切なこと 話し合い名人への手引き

話し合いにおける各役割について初めて学習する児童に、話し合いのモデルの動画を見せ、発言の内容や話し合いの様子から役割を理解させた。また、全員に役割を経験させ、その話し合いの様子をモニタリングさせた。その際の気付きを次の話し合いの練習に生かすよう指導した。

第4時から第7時にかけて、話し合いの人数を徐々に増やして話し合いの練習を行わせた。第3時で司会者の発言の仕方を学んだ後に「話し合い進行表」としてまとめ、話し合いで活用した。次に示す。

話し合い進行表
①話し合いの目的を確認するとき ・これから、について話し合います。 ・それは、に提案してもらいます。
②意見を集めたいとき ・について意見はありませんか。 ・意見のある人は発言してください。 ・質問はありませんか。
③話し合いの目的からそれたとき ・ちょっと待ってください。まだうについて決まっています。
④途中で意見をまとめるとき ・という意見が多いようです。今、〇〇意見が出ています。〇と〇です。
⑤話し合いで出た意見をまとめるとき ・みんなの意見の共通点は、です。 ・みんなの意見のちがう点は、です。
⑥最後に決まったことを確認するとき ・今日は、について話し合いました。決まったことは〇〇です。 ・いろいろな意見を出してくれてありがとうございました。 ・これで、話し合いを終わります。

話し合い進行表

2 研究授業の分析と考察

(1) 目的に応じて適切に話し合いを進行する力が高まったか

ア 役割を理解することができたか

問い一において、プレテストでは、ア・イのどちらも正解した児童は9人で全体の25%であったのに対し、ポストテストでは22人で全体の62%に上昇している。

次に、問い二の判断基準を表8、その基準に沿った結果を表9に示す。

表 8 問い二の判断基準

A	出てきた意見の共通点と相違点をまとめ、話し合いの進行を促していることを捉えた記述をしている。
B 1	出てきた意見の共通点と相違点をまとめていることを捉えた記述をしている。
B 2	出てきた意見の共通点をまとめていることを捉えている。 出てきた意見の相違点をまとめていることを捉えている。
C	出てきた意見の共通点と相違点をまとめ、話し合いの進行を促していることを捉えた記述をしていない。 分からないと記述している。

表 9 プレテスト・ポストテストにおける問い二の結果

プレ	ポスト	A評価	B評価	C評価	計（人）
	A評価	1			1
	B評価	2	2		4
	C評価	5（児童a）	19	6（児童b）	30
	計（人）	8	21	6	35

問い二においては、学級全体の85%の児童がプレテストで、司会の進め方の良さについて「みんなのために気を使っている」など、司会の進め方を具体的な内容に踏み込んで捉えていなかった。しかし、ポストテストでは全体の83%の児童が、児童aのように、意見をまとめるポイントを捉えて記述していた。児童aは、意見をまとめた上で、合意を得ながら進めるという司会の具体的な進め方を捉えていることが分かる。

（プレテストにおける記述）

みんなが昼休みを気持ちよくすごせるように考えている。

（ポストテストにおける記述）

共通点を見つけている。ちがう点も見つけている。

そこをみんなに聞いている。

児童aのプレテスト・ポストテストにおける記述内容

次に、プレテスト・ポストテストのいずれもC評価であった児童bは「気持ちが良いというのは人によって違いますと言ったところ」と記述しており、司会の進め方の良さに踏み込んだ記述ができていなかった。しかし、学習過程において、モニタリング後の気付きには「共通点や相違点を言っていたところが良い。」と記述していた。このことから、正しい評価をするために、文字だけでなく映像を取り入れたテストにするなどの工夫が必要であると考えます。

アンケートの「話し合いにおける役割（司会者・提案者・参加者）」について記述する問いでは、事前で「分からない」と記述した児童がいたが、事後では、学級の全員が話し合いにおける役割を捉えた記述をしていた。事前で「分からない」と記述した児童cの事後における記述を表10に示す。

表10 児童cの事後アンケートにおける記述内容

司会者	話し合いを進める。まとめてみんなに言う。
提案者	話し合ってほしいことを提案する。みんなに具体的に説明する。
参加者	司会者に合わせて意見を出す。話し合っていることと違うことを言わない。

これらの結果から、課題を解決するための話し合いにおける役割を理解することができたといえる。

イ 話し合いの目的からそれずに、自分と他者の意見の共通点と相違点を整理しながら話すことができたか

図2は、「話し合いのとき、問題が解決するように進めているか」について、図3は「自分の考えと同じか違うかを考えて聞いているか」についてのアンケートの結果を表している。

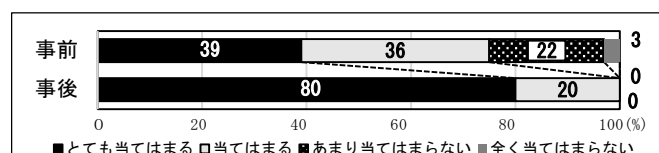


図2 「話し合いのとき、問題が解決するように進めている」という児童の意識

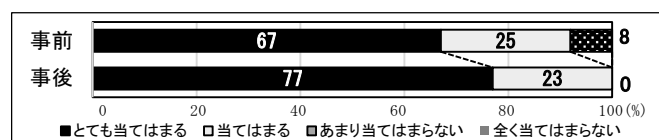


図3 「自分の考えと同じか違うかを考えて聞いている」という児童の意識

どちらの項目も児童の意識が向上していることが分かる。図2の結果から、目的をもって話し合いに臨むという児童の意識が向上したと考える。

また、図3のアンケート項目で、否定的回答から肯定的回答に変わった児童dの話し合いのメモを図4に示す。第4時は、名前や意見の中身を全て羅列

したメモになっている。一方、第7時では、同じ意見を矢印でつなぎ、人数を書き込むなど、意見を整理したメモになっている。

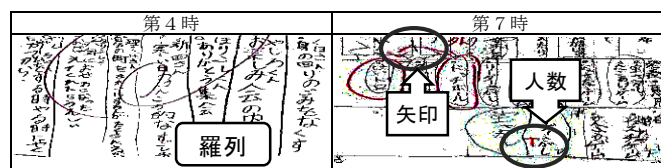


図4 児童dのメモの記述の比較

アンケートの結果と合わせてみると、問題解決に向けて話し合いをするという目的意識をもち、共通点や相違点を整理しながら話し合いに参加する児童が増えたことが分かる。しかし、児童dは話し合いの中で発言するまでには至っていないことから、自分の意見を言うタイミングをつかむことが課題と考えられる。

次に第7時「学級会のシミュレーション」における司会者と参加者の発言から考察する。

- 【司会者】
 ① 提案者について意見はありませんか。（提案者に）もう少し詳しく言ってください。
 ② 今楽しくやるという意見が多いようですね。今「けんかせず楽しくやる」と「なかよくする」という意見が出ています。
- 【参加者】
 ① 提案者の〇〇君に似ていて、「楽しくけんかなく楽しむ」がいいと思います。わけは楽しくけんかなくしたら心に残ってうれしいからです。
 ② ぼくは提案の意見と似ているところもあるけれど、少し違うところもあります。

第7時「学級会のシミュレーション」における児童の発言

司会者として、発言の明確化を図ったり、出た意見を共通点でまとめて決定を促したりしている。また、参加者として提案者の意見と自分の考えを比較して、共通点と相違点を捉えた発言をしている。これらの発言から、話し合いの目的からそれないように自分の考えを整理しながら話していることが分かる。

ア、イのことから、目的に応じて適切に話し合いを進行する力は、おおむね高まったと考える。

(2) 動画を活用し、話し合いの仕方をまとめる活動は、目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高めることに有効であったか

ア 事後アンケートから

次ページの図5は、「話し合いのビデオをみることはどんなことに役立つか」の設問で、「司会の発言を考えること」「話し合いの仕方を学ぶこと」「自分たちの話し合いの良かったところや直したらよいところを振り返ること」の項目ごとの児童の意識を表している。

全ての項目において肯定的回答が97%となっていることから、話し合いの動画を見ることは役に立つと捉えていることが分かる。

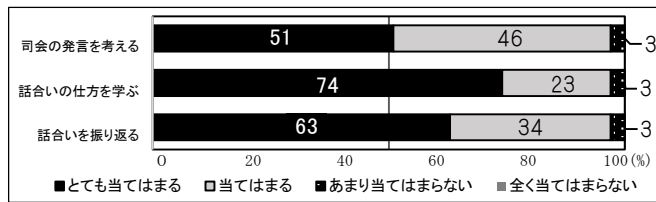


図5 話し合いの動画の有効性についての児童の意識

これらのことから、話し合いの学習において動画を活用することは有効であるといえる。

イ 研究授業から

次に、話し合いのモデルの動画を見たり、モニタリングで動画を見たりして、話し合いの仕方をまとめる活動の有効性について、児童の振り返りの記述や発言を基に考察する。

(7) 動画の有効性1「臨場感」について

第1時において、話し合いのモデル（役割を果たしている例）の動画を見て気付いたことを学級で出し合い、役割ごとにまとめたものである。その気付きの中には、教育出版の教科書にある話し合いで気を付けるポイントが含まれていた。教科書のポイントと照らし合わせてまとめたものを表11に示す。

表11 話し合いのモデル（役割を果たしている例）の動画を見ての気付き

	話し合いのモデルを見ての気付き	教科書のポイント
司会者	①最初と最後に目的を確認している。 ・意見が少ないときは意見を出した人にもう一度きく。 ・発言の後に「いいですか」とみんなに確認している。 ②話がそれたら教えてあげる。 ③共通点を探している。 ③共通点を確認している。 ③共通点をまとめている。 ④意見をまとめている。	①話し合うことをはっきりと伝える。 ②話し合っている内容からそれないようにする。 ③共通点や違う点を整理し、まとめる。 ④大事なことをまとめ、話し合いで決定する。
提案者	①提案があるから話し合いをすることがよく分かる。 ②順序よく説明している。 ②分かりやすく説明している。	①理由をはっきりさせて提案する。 ②質問されたことについて分かるように話す。
参加者	①質問をしている。 ②理由をつけて意見を言っている。 ③すぐに自分の意見を言っている。 ・全員が意見を出している。 ③賛成・反対の意見を出している。 ・司会の言うことを聞いている。 ・自分が話すときだけ話している。 ・意見を出すとすぐ次に意見が出ている。	①よく分からないことは質問して確かめる。 ②理由を話すようにすると考えがよく伝わる。 ③自分の意見をはっきり言う。

下線部分は、プレテストで司会の役割について「分からない」と記述した児童の気付きである。それ以外にも「メモしている」などの気付きを挙げている。動画だからこそ、話し合いの様子を臨場感をもって見ることができ、話し合いの際の態度面においても気付けたことが分かる。役割を知らない児童にとって、動画を見ての気付きを出し合い、まとめるこ

とは、役割理解の手立てになっていると考える。

(4) 動画の有効性2「焦点化」について

話し合いのモデルの動画を焦点化して活用した時間と、動画活用の目的を合わせて表12に示す。

表12 「話し合いのモデル」を活用した時間と動画活用の目的

第2時	第3時	第6時
提案者・参加者の役割理解 役割を果たしている例	司会者の役割理解 司会の発言の仕方 役割を果たしていない例	モニタリングや相互評価の際の視点理解 役割を果たしている例

第2時では、それぞれの役割についてだけでなく「提案者は話し合ってほしいことを言う」「参加者はその提案に対して意見を出す」といった役割の関係について捉えた記述が見られた。

第3時で、話し合いのモデル（役割を果たしていない例）の動画を見た直後の児童eの気付きを図6に示す。

話し合いのモデル	(児童eの気付き)
	僕は、クイズに決まっていなかったのに、（司会者が）「いいですね。」って言ってしまったから、意見がごちゃごちゃに分かれて多数決になったんだと思います。

図6 話し合いのモデル（役割を果たしていない例）を見た直後の児童の気付き

児童eの記述から、司会の役割を果たしていない発言によって、話し合いの流れが変わることに気付いていることが分かる。学習後の振り返りに、「参加者の自分勝手な発言で話し合いが適切に進まない」といった記述もあったことから、司会者だけでなく参加者の発言の仕方も、適切な話し合いを進行する上で大切であることに気付いたことが分かる。

また、話し合いの流れが変わった場面を焦点化し、司会の発言を考える学習では、児童は役割を果たしている例の司会の発言を基にして書いていた。前時までに、モデルを活用して役割理解をしていることで、役割を果たしていない例での司会の発言と比較しやすく、適切な発言を考えることに抵抗がなかったと考えられる。

第6時では、モニタリングの評価につながるよう、話し合いのモデルの発言と評価の観点とを対応させた。プレテストで役割について「分からない」と解答した児童が、「共通点を言えばいい」など具体的にアドバイスしていたことから、話し合いを客観的に見て、話し合いの流れを捉えられるようになったと考える。

これらのことから、焦点化して動画を活用することは、即時性が求められる学習において具体的な改善策を捉えることに有効であるといえる。


A グループの話し合いの様子		モニタリングの様子と児童fの気づき	B グループの話し合いの様子	第7時「学級会のシミュレーション」の司会者の発言
司会	これからお楽しみ会のめあてについて話し合います。		司会	これからお楽しみ会のめあてについて話し合いを始めます。
提案	それでは○君に提案してもらいます。お楽しみ会のめあてで「楽しい歌を歌ったらいいと思います。」「歌を歌うと心が一つになって友達と気が合ったりするからです。		提案	僕はお楽しみ会のめあては、「みんなで楽しくやろう」がいいと思います。わけはけんかなく楽しくしたいからです。
司会	意見のある人は発言してください。		司会	①提案の意見について、意見はありませんか。ないようなので、質問はありませんか。
児童f	私は「みんな仲良く協力して楽しい会にしよう」というめあてがいいと思います。理由は協力・仲良くが目標だからです。あと楽しい会にしたいからです。	「提案について意見を述べよよかったんだと思います。」		提案について意見はありませんか。 (出ないので提案者に) ②○○君、もう少し詳しく言ってください。

図7 モニタリング後の児童fの気づきと話し合いの様子の変容

(ウ) 動画の有効性3「モニタリング」について

第6・7時で「自分たちの話し合いの様子」を録画したものを教材とし、モニタリング後に気づきを出し合って話し合いの手引きにまとめる活動を行った。焦点化してモニタリングした場面を表13に、モニタリング前後の話し合いの変容を図7に示す。

表13 焦点化してモニタリングした場面

第6時	第7時
<ul style="list-style-type: none"> ・司会が指名している場面 ・司会が意見を集める場面 (何についての発言をしてほしいか) ・一部の児童の発言に偏っている場面 ・話し合いの目的がそれている場面 ・メモを取りながら話し合っていない場面 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の人の意見をつなげて発言している場面 ・提案者の提案の内容が議題とかみ合っていない場面 ・提案に対する意見を出していない場面

第6時では、学級を二つのグループに分け、前半のグループの話し合いの様子を録画しておき、話し合い終了直後に全員でモニタリングした。

児童fは、モニタリング後に自分の発言が提案に対しての意見ではないことに気づき、全体で気づきを出し合う際に発表している。これは、モニタリングにより、話し合いの中における自分の発言を客観的に捉えられた結果と考える。また、Bグループや第7時の話し合いにおいても下線①②のように、司会者も提案に対しての意見を促すようになっている。

このことから、モニタリングすることは、客観的に話し合いの進行を捉え、自己評価や相互評価をすることに有効であると考ええる。

ア、イのことから、動画を活用し、話し合いの仕方をまとめる活動を取り入れることは、目的に応じて話し合いを進行する力を高めることに有効であったと考える。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

小学校国語科の話し合うことに関する指導において、動画を活用し、話し合いの仕方をまとめる活動をするには、目的に応じて適切に話し合いを進行する力を高めることに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

- 前の人の意見を受けた発言を意識するなど、さらに話し合いが深められるように、司会を立てた話し合い活動を積極的に取り入れていく。
- 話し合いの指導において、発達段階を考慮して、動画の活用の仕方及び動画の内容を工夫し、系統性をもたせた指導計画を開発したいと考える。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成20年a):『小学校学習指導要領』東洋館出版社 p.22
- 2) 文部科学省(平成20年b):『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 p.50
- 3) 水戸部修治(平成21年):『初等教育資料No.850』「子どもが見通しを立てて進める『話すこと・聞くこと』の授業づくり」東洋館出版社8月号 p.51
- 4) 山元悦子(2004):『朝倉国語教育講座3 話し言葉の教育』倉澤栄吉 野地潤家監修 朝倉書店 p.55
- 5) 山元悦子(2009):「コミュニケーション能力の発達に関する研究-小学5年生における認知・思考の発達特性-」『研究論文集-教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集- 第3巻 第1号』 p.3
- 6) 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.53
- 7) 若木常佳(平成13年):『話し合う力を育てる授業の実践-系統性を意識した三年間-』溪水社 p.128
- 8) 若木常佳(平成13年):前掲書 p.128
- 9) 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.124
- 10) 野口芳宏(1995):日本言語技術教育学会編「まず、『第一歩の踏み出し』が必要」『言語技術教育第3号』明治図書 p.17
- 11) 高橋俊三(1993):『[国語教育ブックレット 10] 対話能力を磨く一話し言葉の授業改革』明治図書 p.157

【参考文献】

- 村松賢一(2009):日本国語教育学会編『国語教育辞典(新装版)』朝倉書店
- 水戸部修治(2013):『小学校言語活動パーフェクトガイド』明治図書